

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
1	ひらいじ 平井寺 (上田市)	山腹工 0.90ha 土留工 7個 落石防護壁工 72m 落石固定工 5,759㎡ 法枠工 486㎡ 暗渠工 380m 森林整備 61.44ha (工期: H19~H24)	山腹工 0.25ha 落石固定工 2,000㎡ 法枠工 486㎡ 暗渠工 120m	山腹工 0.20ha 土留工 3個 落石固定工 800㎡	山腹工 0.20ha 土留工 3個 落石固定工 800㎡	評価時 (変更) H24	80%	H23までに落石防護柵工と森林整備の全てと落石固定工の80%を実施。H24は残る山腹工を実施する。	H19年の山林火災による焼失区域における森林の復旧を図り人家等の保全を図っている。落石防止施設と森林整備の一体的実施により、森林の水源かん養機能や土砂流出防止機能を向上させる。 H22年2月に発生した奈良尾地籍の山腹崩壊地及びH23年5月に発生した山腹崩壊についても集落に近接しており緊急性が高いため事業を拡大して実施し、平成24年度での完了を図る。	新たな山腹対策の必要性が認められる。 平成24年度での完了を図る。	「拡大」
						必要性 A	特記事項 H21変更: 落石防護柵118m増、落石固定工600㎡増、森林整備12ha増 事業費9,600万円増 工期1年延長 H23変更: 山腹工0.2ha増、落石防護柵166m減、落石固定工360㎡増、森林整備15ha増 事業費3,960万円増 H24変更: 山腹工0.2ha増、土留工3個増、落石固定工1,000㎡増、法枠工400㎡増、暗渠工380m増 事業費7,967.9万円増 ・H23.5.29発生した初太郎地籍の災害による山腹対策を追加				
						重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=17.00				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				
2	なまごえ 釜口 (岡谷市)	谷止工 1個 流路工 426m 山腹工 0.51ha 土留工 5個 水路工 379m 筋工、伏工 作業車道 1,700m 森林整備 65.60ha ほか (工期: H19~H24)	谷止工 1個 流路工 426m 山腹工 0.51ha 土留工 5個 水路工 379m 筋工、伏工 作業車道 1,600m 森林整備 48.90ha ほか	森林整備 16.80ha 作業車道 100m	森林整備 16.80ha 作業車道 100m	評価時 (当初) H19	92%	計画どおり進んでいる。 H23年度までに施設整備が完了し、H24年度に残りの森林整備を実施し、事業を完了する。	平成18年7月豪雨災害発生エリアで、森林整備と施設整備を一体的に実施して災害に強い森林をつくる事業であり緊急度が高い。 地域の森林整備に取り組み機運の高まりに呼応して里山の整備を進展させるため、事業を継続実施し、平成24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
						必要性 A	特記事項 特になし。				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 7.76				
						緊急性 A	住民参加状況等 工事施工地において地元住民が主体的に植樹祭を行うなど、地元と一体となって計画を進めている。				

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
3	にしやま 西山 (諏訪市)	谷止工 12個 床固工 4個 山腹工 0.90ha 土留工 6個 水路工 447m 森林整備 112.20ha	谷止工 1個 床固工 4個 森林整備 10.00ha	谷止工 2個 山腹工 0.20ha 土留工 3個 森林整備 14.00ha	谷止工 2個 山腹工 0.20ha 土留工 3個 森林整備 14.00ha	評価時 (変更) H23	84%	計画どおり進んでいる。 H23までに谷止工10個及び床固工完了、森林整備の88%を完了。H24は引続き谷止工2個、山腹工、森林整備を実施し、事業を完了する。	平成18年7月豪雨災害発生エリアで、さらに平成21年8月豪雨により山腹崩壊、渓流浸食が発生し、緊急に下流域の保全を図る必要があるため、事業を継続して実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		〔工期：H19～H24〕					必要性 A	特記事項 H21年8月豪雨災害を受け、大熊区の要望により保安林を拡大指定し、森林整備事業を推進している。 H23変更 床固工6個増 事業費7300万円増 H21.8月豪雨災により後山地区の蛇ヶ沢において渓流の荒廃が進行しているため、事業エリアを拡大してH23より実施する。			
		3億2223万2千円		7970万円	7550万円	7550万円	重要性 A				
							効率性 A				
					緊急性 A	住民参加状況等 大熊区で保安林指定推進委員会を設け活動している。					
4	ひがしやま 東山 (諏訪市)	谷止工 5個 山腹工 0.06ha 落石防護網工 569㎡ 森林整備 41.30ha	谷止工 2個 森林整備 12.00ha	谷止工 2個 森林整備 5.00ha	谷止工 2個 森林整備 5.00ha	評価時 (変更) H22	90%	計画どおり進んでいる。 H23年度までに谷止工3個、山腹工を実施、森林整備の88%を完了。H24は引続き谷止工2個、森林整備を実施し、事業を完了する。	H19年度より森林整備中心の事業を進めてきたが、H21年8月の豪雨災により荒廃が進んだ集落上部の渓流への対策工を追加し事業を実施している。 地域住民との連携により災害に強い森林をつくるため、事業を継続し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		〔工期：H19～H24〕					必要性 B	特記事項 H22変更 谷止工6個増 事業費9,060万円増 H21年8月豪雨災害により、集落上部の渓流内荒廃が進んだため計画を変更した。			
		1億3508万円		4800万円	3630万円	3630万円	重要性 A				
							効率性 A				
					緊急性 A	住民参加状況等 毎年危険地区パトロールを実施しており(三ノ久保・神戸・鎌倉)、併せて治山事業施行地の見廻りを実施している。					
5	にしやまの 西茅野 (茅野市)	谷止工10個 森林整備 57.50ha	谷止工 2個 森林整備 16.50ha	谷止工 4個 森林整備 10.00ha	谷止工 4個 森林整備 10.00ha	評価時 (当初) H21	63%	計画どおり進んでいる。 H23までに谷止工6個、森林整備の83%を完了。H24は引続き谷止工4個と森林整備を実施し、事業を完了する。	H18年7月、H21年8月の豪雨災により大きな被害が発生した地域である。重要な保全対象に近接しているため、早期に対策を図る必要がある。 地域住民との連携により災害に強い森林をつくるため、事業を継続し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		〔工期：H21～H24〕					必要性 B	特記事項 平成21年8月豪雨災害における被害を踏まえ、地元区、茅野市等と共に災害に強い森林づくりや施設整備に取り組んでいる。 また、平成21年8月豪雨などのゲリラ豪雨被害に対応し、施設等整備位置を見直して、荒廃渓流及び周辺森林の整備を実施する。			
		2億263万3千円		3880万円	7500万円	7500万円	重要性 A				
							効率性 A				
					緊急性 A	住民参加状況等 地元林野組合等が主体となって、地域森林の主體的な整備を行える体制整備を進めている。					

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
8	いじま 飯島 (飯島町)	山腹工 0.30ha 落石固定工 1,028 m ² 土留工 10個 水路工 155m 森林整備 34.00ha 〔工期:H22~H26〕	山腹工 0.06ha 土留工 3個 伏工 160m ² 実播工 300m ² 森林整備 3.91ha	山腹工 0.20ha 土留工 7個 森林整備 6.00ha	山腹工 0.20ha 土留工 7個 森林整備 33.00ha	評価時 (変更) H24	38%	H23は山腹工1箇所が完了し、H24は山腹工2箇所及び森林整備を実施する。	河岸段丘の地質は、段丘崖の浸食の進行が早く、さらに道路、用水路等に被害が及ぶことが予想されるため、崩壊防止対策と森林整備を同時に進めて保安林の機能強化を図る必要がある。	予定工期内での完了を図る。	「継続」
		1億2466万9千円	1550万円	6000万円	7700万円	必要性 A	特記事項 H24工期2年延長。	重要性 A			
9	かみひさかた 上久堅 (飯田市)	山腹工 0.13ha 土留工 7個 水路工 40m 筋工、伏工 森林整備 120.10ha 〔工期:H22~H25〕	森林整備 30.00ha	森林整備 32.00ha	森林整備 81.90ha	評価時 (当初) H22	54%	計画どおり進んでいる。H22は境界が確定している箇所を優先して森林整備と山腹工を実施。H24以降順次森林整備を進めていく。	集落に近接した里山地域であり、豪雨災害への備えとして森林整備に対する意識が地域全体で高まっているため、地域住民と連携して森林整備を進め、地質が脆弱な保安林の防災効果を高めていくため、事業を継続する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
		5315万円	1050万円	1270万円	2435万5千円	必要性 A	特記事項 地域は元気づくり支援金を取得し、この地域の森林環境や歴史的環境の保全を図っている。また治山事業と森林造成事業を組み合わせた流域全体の取組に発展している。	重要性 A			
10	みなみんの 南信濃 (飯田市)	谷止工 2個 山腹工 1.02ha 森林整備 34.00ha 〔工期:H20~H25〕	山腹工 0.25ha 落石固定工 3,000m ² 伏工 300m ²	山腹工 0.31ha 落石固定工 4,000m ²	谷止工 2個 山腹工 0.61ha 森林整備 22.10ha	評価時 (変更) H23	57%	H23までは落石対策を主とした山腹工を実施。H24年度は山腹工の残りを実施する。	平成21年8月の地震の際には径1.2mの巨石が国道152号線上に落下するなど、落石が安全な通行の大きな脅威となっている。平成22年7月豪雨により新たに渓流及び山腹の荒廃が発生したことへの対応を含め事業を継続して実施する必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		3億1780万円	7480万円	8100万円	1億6840万円	必要性 B	特記事項 H22変更:山腹工1箇所(吹付工1,400m ² 、落石固定工7,450m ²)増、事業費1億8,100万円増 工期2年延長 H21年8月の地震により、国道へ巨石が落下。対策工を追加、H23変更:谷止工2個増、山腹工1箇所(筋工、伏工)増、事業費2,310万円増 工期1年延長 H22年7月豪雨災による渓流から国道への新たな土砂流出に対応。	重要性 A			

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
11	あき(ま)沢 大棕沢 (平谷村)	谷止工 2個 山腹工 0.12ha 土留工 2個 実播工 870㎡ コンクリート吹付工 190㎡ 森林整備 20.00ha (工期: H22 ~ H24)	山腹工 0.10ha 水路工 15m 実播工 600㎡ 森林整備 8.00ha	谷止工 1個 山腹工 0.06ha 実播工 270㎡ コンクリート吹付工 190㎡ 森林整備 12.00ha	谷止工 1個 山腹工 0.06ha 実播工 270㎡ コンクリート吹付工 190㎡ 森林整備 12.00ha	評価時 (当初) H22 必要性 B 重要性 C 効率性 A 緊急性 A	54% 特記事項 特になし。	計画どおり進んでいる。 H23年度までに谷止工1個と山腹工のうち土留工完了。H24は山腹工と森林整備の残りを 実施し、事業を完了する。	重要な水源林であることを考慮し、保安林の水 土保全効果の向上を目的とした整備を一体的に 行う必要がある。 保全対象は遠いため、 施設整備は最小限とし た計画により、事業を継続し、平成24年度完了を 図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		6660万円	2864万円	3080万円	3080万円	B/C(費用対効果)=5.26	住民参加状況等 特になし。				
12	くみの 奥野 (根羽村)	谷止工 4個 森林整備 54.00ha (工期: H22 ~ H24)	谷止工 2個 森林整備 7.00ha	谷止工 1個 森林整備 32.00ha	谷止工 1個 森林整備 32.00ha	評価時 (当初) H22 必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	65% 特記事項 同一溪流の下流において計画されている砂防事業と調整、連携を図り事業を実施している。	計画どおり進んでいる。 H23年度までに谷止工2個と森林整備の24% 完了。H24年度は引続き谷止工1個と森林整備 を実施し、事業を完了する。	平成12年の豪雨災害 により大きく荒廃した流域への対応であり、砂防 事業との連携により対応する重要性の高い箇所である。 このため、継続して事業を実施し、平成24年度 完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		8742万7千円	5712万7千円	3030万円	3030万円	B/C(費用対効果)= 2.32	住民参加状況等 特になし。				
13	くろかわ 黒川 (松本市)	床固工 3個 護岸工 58m 森林整備 187.30ha (工期: H19 ~ H24)	森林整備 30.80ha	森林整備 37.00ha	森林整備 37.00ha	評価時 (変更) H23 必要性 B 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	96% 特記事項 H23変更 床固工6個減、山腹工1箇所減 事業費9,560万円減 残事業量再調査により自然復旧が確認された箇所について 実施を見送り	計画どおり進んでいる。 H23までに護岸工完了、森林整備80%を実施。 H24は引続き森林整備を実施し、事業を完了する。	平成16年台風災害、平成18年7月豪雨災害 により、重要な水源である黒川流域の森林、 溪流が著しく荒廃しているため、森林整備と施設 整備を一体的な実施する必要がある。このため、 継続して事業を実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		9151万5千円	1040万円	900万円	900万円	B/C(費用対効果)= 5.00	住民参加状況等 上水道の取水施設があるため、関心が高く協力的だが、維持 管理程度の参加に留まっている。				

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況				
14	ながわ 奈川 (松本市)	谷止工 2個 森林整備 20.86ha (工期:H23~H24)	谷止工 1個 森林整備 16.36ha	谷止工 1個 森林整備 4.25ha	谷止工 1個 森林整備 4.25ha	評価時 (当初) H23	54%	H23年度に谷止工1個及び森林整備を実施。 H24年度は引続き谷止工1個、森林整備を実施し、事業を完了する。	当該地は平成18年度の豪雨災害及びその後の気象害による荒廃及び不安定土砂の堆積が未だに残る箇所であり、施設整備と森林整備による荒廃地の復旧により、水源環境の改善が早期に求められているため、継続して事業を実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
		7200万円	3300万円	3900万円	3900万円	必要性 A	特記事項 特になし。	重要性 A				効率性 A
15	のまたがわ 野俣沢 (朝日村)	山腹工 12.80ha 航空実播工 森林整備 65.00ha (工期:H23~H27)	森林整備 4.90ha	山腹工 9.00ha 航空実播工 森林整備 10.00ha	山腹工 12.80ha 航空実播工 森林整備 60.10ha	評価時 (当初) H23	6%	初年度は全体計画策定のために測量試験費と緊急性の高い森林整備を先行して行なったが、これから航空緑化が本格的に実施されるために進捗率が上がっていく計画である。	野俣沢一帯は朝日村の重要な水源地であるが、平成16、18年の豪雨災害以降崩壊地が拡大し土砂流出が止まらないため、継続して事業を実施し、早期復旧を図る。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」	
		3億円	1660万円	5500万円	2億8340万円	必要性 B	特記事項 鎖川の源流域では流域の荒廃が進み、平成4~16年にかけ治山事業で崩壊地の復旧に努めたが、平成18年7月豪雨等の影響により未着手の崩壊地が拡大を続けて土砂流出が止まらない状況である。	重要性 A				効率性 B
16	しおさわがわ 塩沢川 (大町市)	谷止工 2基 山腹工 0.55ha 土留工3個 暗渠工 347m (ホーリング) 水路工 540m 実播工 1,800㎡ 排土工 4,700㎡ 森林整備 15.00ha (工期:H21~H25)	山腹工0.55ha 山腹工(A地) 0.35ha 土留工1個 法切工1,000m3 排土工900m3 山腹工(平沢) 0.20ha 土留工2個 水路工240m 暗渠工287m 他	(H23繰越工事実施)	山腹工 0.30ha (ホーリング) 水路工 200m 実播工 1,000㎡ 排土工 1,500㎡	評価時 (変更) H24	66%	谷止工及び山腹工の一部が完了。	平成18年7月豪雨災害による山腹崩壊土砂が渓流内に堆積し、下流域に被害を及ぼすおそれがあるため、土砂の流出防止対策、災害防止効果の向上を目的とした森林整備を早急に進める必要がある。 H23梅雨豪雨により新たに発生した地すべりへの対策を加えて、継続して事業を実施する。	新たな山腹及び溪流対策の必要性が認められる。	「拡大」	
		1億8250万円	6970万円	円	6200万円	必要性 A	特記事項 H23変更: 梅雨豪雨による地すべり対応 山腹工1箇所増(土留工2個、水路工240m他) H24変更: 工期1年延長、全体計画変更 H24年度は、H23事業(補正)の繰越工事を実施。	重要性 A				効率性 A

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)			補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
17	きなき 鬼無里 (長野市)	谷止工 3個 土留工 6個 護岸工 1個 水路工 160m 伏工 2,600㎡ 森林整備 42.0ha 除伐 15.0ha 〔工期:H19～H24〕	谷止工 1個 護岸工 1個 土留工 2個 本数調整伐 6.33ha	土留工 1個 水路工 80m 伏工 1200㎡	土留工 1個 水路工 80m 伏工 1200㎡	評価時 (変更) H24	90%	H24年度は、原地区で山腹工0.1haを実施する。	重要な水源地帯において、平成18年災害、H21年災害の復旧を図る施設整備に加え森林整備を実施し減災効果を高めていくため、事業を継続して実施し、平成24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		1億3036万円	2916万円	1300万円	1300万円	必要性 A 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	特記事項 当該地域の1級河川裾花川はイワナ、ヤマメなど漁業資源に恵まれており、本事業の実施により生育環境の健全化も図られる。 H24変更:工期1年延長 B/C(費用対効果)=2.60 住民参加状況等 特になし。				
18	(まかわ 楠川 (長野市)	谷止工 7個 谷止工 1個 (嵩上) 森林整備 5.00ha 〔工期:H23～H27〕	谷止工 2個 森林整備 5.00ha	谷止工 2個 谷止工 1個 (嵩上)	谷止工 5個 谷止工 1個 (嵩上)	評価時 (変更) H24	23%	H23年度に谷止工2個、森林整備を実施。H24は引き続き谷止工2個及び谷止工(嵩上)1個を実施する。	平成21年及び平成22年豪雨災害により発生した不安定土砂が渓流内に堆積し、次期降雨による流出の恐れがあるため、継続して事業を実施する。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		1億6750万円	3500万円	2500万円	1億3250万円	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 当該地域の1級河川楠川はイワナ、ヤマメなど漁業資源に恵まれており、本事業の実施により生育環境の健全化も図られる。 H24変更:工期2年延長 B/C(費用対効果)=13.78 住民参加状況等 本年5月に地域住民に事業説明を行なった。				
19	ひなたま 平滝 (栄村)	谷止工 4個 山腹工 0.10ha 土留工 ほか 森林整備 154.00ha 〔工期:H19～H24〕	谷止工 1個 森林整備 24.00ha	谷止工 1個 森林整備 23.00ha	谷止工 1個 森林整備 23.00ha	評価時 (変更) H23	90%	H23年度までに山腹工と谷止工2個完了、森林整備の85%を実施。H24年度は引き続き谷止工1個と森林整備を実施し、事業を完了する。	上流域での湧水に起因する崩壊から泥流が発生する災害が過去から発生している箇所であり、流域の森林整備と施設整備を一体的に実施している。このため、事業を継続して実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		2億4530万円	6010万円	2600万円	2600万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 H22変更:暗渠工(ポーリング)増 事業費1億3,300万円増 工期1年延長 既設山腹から新たに湧水があり、対策工を増。 オマチ川上流域の詳細調査を実施して流出土砂量の想定に個づき、谷止工の構造を見直し。 H23変更:床固工3個減 残事業量再調査により自然復旧が確認される箇所について実施見送り B/C(費用対効果)= 6.30 住民参加状況等 特になし。				

分野	森林を育成する治山	事業番号、事業名	34 水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
20	あかほ 青嵐 [栄村]	山腹工 0.10ha 土留工 1個 水路工 119m 暗渠工 340m (ホーリング) 森林整備 10.00ha	山腹工 0.10ha 水路工 51m 暗渠工 340m (ホーリング)	山腹工 0.10ha 土留工 1個 水路工 68m	山腹工 0.10ha 土留工 1個 水路工 68m	評価時 (当初) H23	48%	H23年度に山腹工(暗渠ホーリング)を実施し、 H24年度に残りの山腹工及び森林整備を実施し、 事業を完成させる。	地すべり対策を行った 治山事業施行地である が、地すべりの再活動 により下流保全対象へ の危険度が再び高まっ ているため、継続して事 業を実施し、平成24年度 完了を図る。	平成24年度での完 了を図る。	「継続」
		[工期:H23~H24]				必要性 A	特記事項 地すべり性山腹崩壊及びナラ枯れ被害への対応				
		3222万8千円	2222万8千円	1000万円	1000万円	重要性 A					
						効率性 A		B/C(費用対効果)=11.10			
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					
21	やしき 屋敷 [栄村]	谷止工 2個 山腹工 0.10ha ロープネット 1,000m ² 森林整備 10.00ha	山腹工 0.10ha ロープネット 1,000 m ²	(H23補正繰越工 事実施)	谷止工 2個 森林整備 10.00ha	評価時 (当初) H23	13%	計画どおり進んでいる。 H23年度(補正)により、山腹工(ロープネット工) を実施。	平成23年3月の地震により、 秋山郷への重要な 連絡林道が被災し、屋 敷集落では多数の落石 が発生している。そのた め施設整備と森林整備 を一体的に進め、森林 の持つ水源かん養機能 と土砂流出防止機能の 高度発揮を早急に図る 必要があり、継続して事 業を実施する。	重要性が高く、必 要性、緊急性も認め られる。	「継続」
		[工期:H23~H27]				必要性 A	特記事項 H23.3月地震災害 H24年度は、H23事業(補正)の繰越工事を 実施。				
		2億3000万円	3000万円	-円	2億円	重要性 A					
						効率性 A		B/C(費用対効果)= 3.21			
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					
合計	21箇所	36億4403万4千円	9億1万5千円	7億4890万6千円	14億6394万7千円			A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満			

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		事業番号、事業名				補助・単独別		補助			
森林を育成する治山		34水源地域等保安林整備(水源地域再生対策)				補助・単独別		補助			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
1	おぼら 小原 (伊那市)	谷止工 2個 床固工 8個 山腹工 0.49ha 土留工 7個 本数調整伐 89.00ha [工期: H23 ~ H27]	床固工 3個 本数調整伐 7.00ha	床固工 2個 本数調整伐 9.00ha	谷止工 2個 床固工 5個 山腹工 0.49ha 土留工 7個 本数調整伐 82.00ha	評価時 (当初) H23	15%	計画どおり進んでいる。平成24年度からは工事及び森林整備の進捗率を高める。	地域の重要な水道 水源森林の荒廃が進んでおり、豪雨のたびに水道施設に土砂が流出している。 施設整備と森林整備を一体的に進め、森林の持つ水源かん養機能と土砂流出防止機能の高度発揮を早急に図る必要があるため、継続して実施する。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
						必要性 A	特記事項 平成18年の集中豪雨時に取水施設に大量の土砂が流入して以来、毎年のように土砂が流入している。現在も上流部に不安定土石が多量に堆積しており、今後の集中豪雨等により流出し取水施設が再被災する危険性が高い。地元からの要望も強く、防災施設の整備は喫緊の課題となっている。				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 3.03				
						緊急性 B	住民参加状況等 取水施設があるため、市、地区役員による見廻りを、また市道、林道の側溝を地域住民が清掃を実施している。				
合計	1箇所	2億4200万円	3500万7千円	1610万円	2億699万3千円						